

## 論語、「やってみる学問」-あとがきにかえて

日本論語研究会 事務局長

宇田川敬介

「品格」という文字が書店に並んで、最近は目新しいという感じはなくなってきている。「品格」というのは、少なくない。しかし、実際に「品格」について語られているであろうか。人間は社会的な生き物である。社会そのものが良くならなければ人間の品格が維持できるはずがない。では、社会は、国そのものが品格を保てなければならぬ。日本国は、世界の平和と地球の環境に左右され、その品格を維持する。「品格」を語るにあたっては、当然に、「一」の「一」ランク上からの話をしなければならない。時間で言えば、「今」を語るときは「過去」から見えてゆかなければならないし、「文化」を語るときは「伝統」「宗教」「習慣」などをしっかりとらえなければ、正確な内容を語れないのではないか。

しかし、それらだけで品格が語れるものではない。それらだけでは、当然に雑学や知識の本だけで終わってしまう。本当に人間の品格を語るのであれば、それら知識などを踏まえつつ「志」が必要ではないだろうか。もちろん、その志は、世の中を良くしようということである。

本書は、日本論語研究会の講師の話をまとめたものである。日本論語研究会とは、知識と志において、各々の業界や世界で第一人者を講師に招いて勉強をする会である。事前の登録や予約など要らない。当日集まれば、だれでも入れる。普段ならば多額な講演料を払わなければならぬような先生の話の場合も同じだ。ただ単にそのような金銭的な気軽さで来る人も少なくない。それも一興である。

しかし、ただ話を聞くだけでは、もったいない。せつかくの第一人者の「金言」「名言」は、同じ志を持っていてこそ、心に響き、自分なりに解釈し、自分の身になって世の中を良くする原動力になる。論語は、自分でやってみる「学問」だ。耳学問ではない。その通りにやってみて、自分なりの生き方や世の中に対する貢献を实践することこそ「論語の教え」であると思う。そして、講師の先生の話は、それをいちいち実感させてくれる。

自分で実践してみて、「できた」と思う時、初めて「論語を実感できた」時だ。それこそ「学ぶ」ことである。講師の先生の方々は、今回読んでいただいたように、行動や人生の岐路でいちいち論語を思い浮かべてはいない。しかし、その時に必ず自分なりの行動学がある。そして、不思議なことに、論語そして中国や日本の故事に則った、そして、その人の時代に合った選択をしている。

さて、私たちだ。「論語なんて難しい」と思うのではない。実際に、行動できることは少なく

ない。「知る」ことを楽しむだけでなく、「自分で動くこと」を通して、「世の中を良くする事」を志すことの、なんと素晴らしいことか。読者の皆様も、そのように自画自賛できる行動を、過去に何度もあつたと思う。しかし、まだ足りないと思う。足りないと思うから、また学ぶ。一人で学んでわからなければ「朋あり、遠方より来る」である。論語研究会に来て、また学ばばよい話を聞いているだけでよい。何かを感じれば、いつもと違う「私」になっているのではないか。「品格を語るには、一ランク上から話さなければならぬ」といった。しかし、逆に世の中を良くするためには、まず自分が行動し、学ばなければならぬ。自分が行動し、学ぶためには、まず何かを感じなければならぬ。私が変われば世の中が変わる。

このように「品格」を語ることにより、自分が変わり、そして、世の中が変わる。世の中が進めば、また自分が学ぶ。どんどんと高みに向かって進む。

読者のみなさん。お分かりの通り、最も取り残されているのは私自身であると思います。ですから、事務局長として、皆様が高みに上がるお手伝いをさせていただければ、と考えております。次回の日本論語研究会で、是非、お会いしたいと思います。

日本を美しく！ ～続々・人間の品格

定価はカバーに表示してあります

二〇一〇年五月二十七日初版発行

編者〃日本論語研究会

発行者〃蜂巣郁雄

発行所〃内外出版

東京都目黒区鷹番三六一

電話 〇三三三七二二〇二四二

落丁、乱丁本は、お手数ですが小社宛お送り下さい。送料小社負担でお取替致します。

ISBN978-4-931410-73-2  
Printed in Japan